

製品名: CD3EAP ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08382**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	55kDa

抗原情報

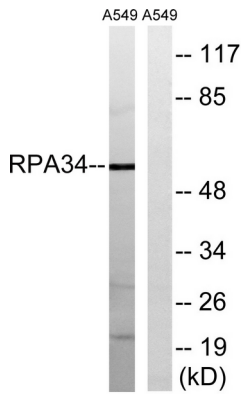
遺伝子名	CD3EAP CD3EAP; ASE1; CAST; PAF49; DNA-directed RNA polymerase I subunit RPA34; A34.5;
別名	Antisense to ERCC-1 protein; ASE-1; CD3-epsilon-associated protein; CAST; CD3E-associated protein; RNA polymerase I-associated factor PAF49
遺伝子 ID	10849.0
SwissProt ID	O15446
免疫原	抗血清はヒト CD3EAP 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 441-490

背景

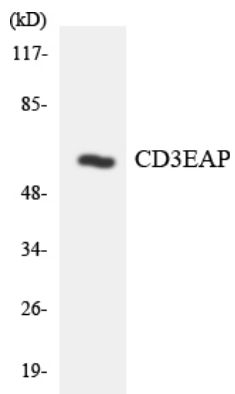
注意:いわゆるヒト ASE1 タンパク質とヒト CAST タンパク質が、機能特性が大きく異なる単一の遺伝子産物の 2つの側面を表しているかどうかは不明です。マウス相同タンパク質を用いた実験では、この遺伝子が T細胞受容体シグナル伝達ではなく rRNA 転写に関与していることが示唆されています。機能:DNA 依存性 RNA ポリメラーゼは、4つのリボヌクレオシド三リン酸を基質として DNA から RNA への転写を触媒します。リソソーム RNA 前駆体を合成する RNA ポリメラーゼ I の成分です。アイソフォーム 1 は、おそらく PIC 形成後の段階で、UBTF 活性化転写に関与しています。機能:アイソフォーム 2 は、既に形成された T細胞受容体 (TCR) 複合体の成分として説明されています。その他:DNA 修復酵素 ERCC1 遺伝子とアンチセンス方向にあり、重複しています。この遺伝子の重複はマウスで保存されており、重要な生物学的機能を示唆しています。PTM:アイソフォーム 1 は、開始能を持つ Pol I-beta 複合体ではチロシン残基がリン酸化されますが、Pol I-alpha 複合体ではリン酸化されません。PTM:アイソフォーム 2 は、T細胞受容体 (TCR) 刺激によりチロシンリン酸化されます。このリン酸化は他のグループによって確認されていません。PTM:おそらく ATM または ATR による DNA 損傷によりリン酸化されます。類似性:真核生物の RPA34 RNA ポリメラーゼサブユニットファミリーに属します。細胞内局在:間期には核小体の線維状中心に存在し、細胞分裂中は染色体の核小体形成領域に局在します。サブユニット:少なくとも 13 のサブユニットからなる RNA ポリメラーゼ I (Pol I) 複合体の構成要素です。TAF1A と相互作用することで SL1 複合体と会合します。UBTF と相互作用する。N 末端領域を介して POLR1E/PRAF1 と相互作用する (類似性による)。アイソフォーム 2 は CD3E と相互作用する。注意:いわゆるヒト ASE1 タンパク質とヒト CAST タンパク質が、機能特性が大きく異なる単一遺伝子産物の 2つの側面を表しているかどうかは不明である。マウス相同タンパク質を用いた実験では、この遺伝子が T細胞受容体シグナル伝達ではなく rRNA 転写に関与している可能性が示唆されている。機能: DNA 依存性 RNA ポリメラーゼは、4つのリボヌクレオシド三リン酸を基質として DNA から RNA への転写を触媒する。リソソーム RNA 前駆体を合成する RNA ポリメラーゼ I の構成要素である。アイソフォーム 1 は、おそらく PIC 形成後の段階で、UBTF 活性化転写に関与している。機能: アイソフォーム 2 は、既に形成された T細胞受容体 (TCR) 複合体の構成要素として報告されている。その他: DNA 修復酵素 ERCC1 の遺伝子とアンチセンス方向に存在し、その遺伝子と重複している。この遺伝子重複はマウスにおいて保存されており、重要な生物学的機能を持つことを示唆している。PTM: アイソフォーム 1 は、転写開始能を持つ Pol I-β 複合体ではチロシン残基がリン酸化されるが、Pol I-α 複合体ではリン酸化されない。PTM: アイソフォーム 2 は、T細胞受容体 (TCR) 刺激によってチロシンリン酸化を受ける。このリン酸化は他のグループによって確認されていません。PTM: DNA 損傷時にリン酸化されます。おそらく ATM または ATR によるものです。類似性:真核生物の RPA34 RNA ポリメラーゼサブユニットファミリーに属します。細胞内局在: 間期には核小体の線維状中心に存在し、細胞分裂時には染色体の核小体形成領域に局在します。サブユニット: 少なくとも 13 個のサブユニットからなる RNA ポリメラーゼ I (Pol I) 複合体の構成要素です。TAF1A と相互作用し、SL1 複合体と会合します。UBTF と相互作用します。N 末端領域を介して POLR1E/PRAF1 と相互作用します (類似性による)。アイソフォーム 2 は CD3E と相互作用します。、

研究分野

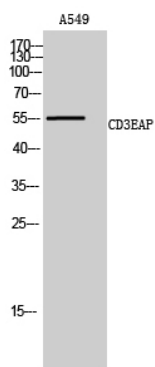
画像データ



CD3EAP 抗体を用いた A549 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



CD3EAP 抗体を使用した HUVEC 細胞溶解液のウェスタンブロット分析。



CD3EAP ポリクローナル抗体を使用した A549 細胞のウェスタンブロット分析。